

令和2年度静岡市協働パイロット事業の実施に関する実態調査

団体名：(一社) 静岡県インラインスケート協会

調査目的

本調査は、令和2年度静岡市協働パイロット事業における本市と市民活動団体との協働の実態や課題等を調査し、本市の市民協働施策に役立てることを目的とします。

設問

問1 協働事業の計画から実施までのプロセスについて、次の表にしたがって評価してください。

(評価…1：よくできた 2：ある程度できた 3：あまりできなかった 4：できなかった 5 該当しない)

		評価欄	
事業 成果 ・ 波及 効果	1	事業目的や市民ニーズの充足を達成することはできましたか。	1
		(評価理由)：アーバンスポーツを楽しんでもらえる機会を作れた	
	2	協働での事業実施により、単独で実施するよりも成果が上がりましたか。	2
		(評価理由)：事業のうち一つの敷地使用許可を取っていただき、大変助かりました。	
	3	市民活動団体の先駆性、創造性を活かした事業実施ができましたか。	1
		(評価理由)：他のどこも実施していないことをできたため	
	4	事業は当初の目的・予定どおりに実施することができましたか。	1
		(評価理由)：体験機会の創出を達成	
	5	当初の予算の見積もりは適正でしたか。	1
		(評価理由)：予算内で実施するように工面したので	
	6	実施した事業は今後、本格実施(継続実施)への発展性が見込まれますか。	2
		(評価理由)：団体の活動としては見込めますが、市担当者が異動になり関係性が分断。	

問2 協働事業の実施によって得られた成果や課題について下欄にお書きください。

協働して事業を行うことで得られた成果

禁止であったり使いにくい場所が多くあり、空いているように見えても管理上の所管が複雑で使用しにくいなど、市民目線では勿体無い場所が多く存在していることがわかった。市の方が積極的に関わっていただけると、使用許可を得られるのが物凄く早い。

協働して事業を行う上での課題

担当者が異動になると、途端にコミュニケーションが途絶えるなど、担当者による差異が大きすぎる。また、市の課題を共有しているという前提で精力的に取り組んでも、市側の方針やプランが見えないことが多く、「これでいいのかな？」と思うことがたくさんある。

問3 令和2年度静岡市協働パイロット事業で実施した事業について、令和3年度以降も継続して事業を実施する予定はありますか。

① 現在実施している

問4 問3で①、②、③と回答した方にお聞きします。貴団体が実施している、又は予定している事業の内容について、簡潔にお書きください。

放課後学習での体験会

あさはた緑地公園での体験会兼マナー講習会

市内商業施設での体験会およびデモンストレーション（予定）

設問は以上です。

御協力いただきありがとうございました。

お問い合わせ・提出先 静岡市 市民局 市民自治推進課

担当：青山、大石

〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1

TEL：054-221-1372 FAX：054-221-1538

メールアドレス：shiminjichi@city.shizuoka.lg.jp

令和2年度静岡市協働パイロット事業の実施に関する実態調査

担当課名： スポーツ振興課

調査目的

本調査は、令和2年度静岡市協働パイロット事業における本市と市民活動団体との協働の実態や課題等を調査し、本市の市民協働施策に役立てることを目的とします。

設問

問1 協働事業の計画から実施までのプロセスについて、次の表にしたがって評価してください。

(評価…1：よくできた 2：ある程度できた 3：あまりできなかった 4：できなかった 5 該当しない)

		評価欄	
事業 成果 ・ 波及 効果	1	事業目的や市民ニーズの充足を達成することはできましたか。	1
		(評価理由)：実施規模に見合う参加者数であり、参加者の満足度が高かった。	
	2	協働での事業実施により、単独で実施するよりも成果が上がりましたか。	2
		(評価理由)：単独で実施するよりも幅広い世代や地域住民へアーバンスポーツの魅力のアピールができた。	
	3	市民活動団体の先駆性、創造性を活かした事業実施ができましたか。	1
		(評価理由)：アーバンスポーツ自体の取り組み事例が少なく、今後の事例と成り得る事業が実施できた。	
	4	事業は当初の目的・予定どおりに実施することができましたか。	1
		(評価理由)：新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しつつ、人数制限を設ける等、可能な範囲で事業を実施することができた。	
	5	当初の予算の見積もりは適正でしたか。	2
		(評価理由)：適正であった。	
6	実施した事業は今後、本格実施（継続実施）への発展性が見込まれますか。	2	
	(評価理由)：若年層を中心としての発展が見込まれる。		

問2 協働事業の実施によって得られた成果や課題について下欄にお書きください。

協働して事業を行うことで得られた成果
アーバンスポーツが若年層に対しスポーツ実施のきっかけとなる訴求力を秘め、マナーを守って実施されれば幅広い年齢層にも支持されるスポーツであることがわかり、今後のスポーツ実施率向上やスポーツ・イン・ライフ推進を図る上での参考となった。

協働して事業を行う上での課題
課題ではないが、「アーバンスポーツを楽しむ機会を創出」を目的としていることから、今後の展開として今回実施されなかったスケートボードやBMX等、他の種目についての需要や可能性を把握したい。

設問は以上です。

御協力いただきありがとうございました。

お問い合わせ 市民自治推進課 市民協働促進係

メールアドレス：shiminjichi@city.shizuoka.lg.jp

担当者：青山、大石（内線：81-2283）